

# 東日本大震災における喪失への支援 コミュニティの再生をめざして

## 趣旨

東日本大震災から2年半以上が経過し、被災地は復興に向けて歩み始めています。人々は多くの喪失体験から、どのようにして新たな価値を見出していくのでしょうか。また、コミュニティの再生の鍵は何でしょうか？今回、阪神淡路大震災や長野県北部地震で支援を続けてきた方々をお招きし、過去の震災の体験をもとに、東日本大震災の今後の支援のあり方を検討します。

日 程：2013年12月8日（日） 11：00～15：00（予定）

場 所：仙台市市民活動サポートセンター 〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

・JR仙台駅から徒歩10分 広瀬通り ・地下鉄広瀬通駅 西5番出口すぐ

対 象：被災地支援に関心のある方

参加費：無料

申し込み方法：JDGSホームページから専用フォームで申し込んでください (<http://jdgs.jp/>)。

## タイムスケジュール

11：00～12：50 全体会 シンポジウム 6階セミナーホール

13：00～14：30 分科会（ランチタイムミーティング）1～5研修室

14：30～15：00 全体会 分科会報告

※分科会は「保健師による住民への保健活動」「仮設住宅、復興住宅の支援」「災害後のこどものメンタルヘルス」です。申し込みの際、希望する分科会をお選びください。なお、参加人数の関係で、分科会の構成が変更することもありますので、ご了承ください。

※分科会は昼食を食べながら行いますので、各自昼食をご用意ください。

## シンポジスト

### ●小野塚良子さん（新潟県十日町市松之山支所 保健師）

中越地震、中越沖地震を経て、長野県北部地震（2011.3.12.）等の後に実施した住民への健康調査をもとに実施した保健活動と、自死対策の松之山モデルの現状について報告。

### ●市川禮子さん（社会福祉法人きらくえん理事長）

阪神淡路大震災の際、仮設住宅、復興住宅でLSA（ライフサポートアドバイザー）をマネジメントした経験について報告する。特に、大切な人、コミュニティを失った人がどのように新たな価値を見つけるために喪失と向き合ったのかについて、体験からの実践報告。

### ●中野則子さん（兵庫県看護協会会長）

阪神淡路大震災当時は、兵庫県職員（保健師）として保健活動のマネジメントを行う。兵庫県として実施した健康調査や職員のメンタルヘルスについての対策を報告。

### ●今井幹枝さん（元兵庫県職員 保健師）

阪神淡路大震災当時は兵庫県職員（保健師）として保健師活動を実践。コミュニティが崩壊している中で実践した保健師活動について報告する。中長期にかけての地域住民への心身のサポートについての実践報告。

### ●井出 浩さん（関西学院大学人間福祉学部教授）

阪神淡路大震災当時は、神戸市の児童相談所主幹として、こどものケアに携わる。災害とこどものメンタルヘルスが専門。災害後のこどものメンタルヘルスについて、中長期の経過を報告。

主催：JDGS (Japan Disaster Grief Support) Project  
龍谷大学 人間・科学・宗教オープンリサーチセンター

共催：仙台グリーンケア研究会

お問い合わせ先 ▶ 龍谷大学 人間・科学・宗教総合研究センター事務室

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67 Tel 075-645-2154 Fax 075-645-2240 (9:00～17:00)